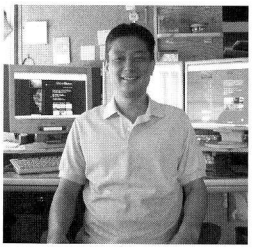
# 早期退職者優遇制度で大手企業を退職 ハローワーク通いで「Web制作」に目覚める

## 柴田健太郎さん●50歳●「工房shibaken」代表

**早期退職優遇制度で22年間勤めた会社を退職した柴田さん。ハローワークに通い、第2の人生を模索する中、天職ともいえる「Web制作」に出会う。そんな柴田さんの生き様を追ってみました。**



1957年生まれ。大学を卒業後、80年4月に日立通信システム（株）入社。輸出向け電子交換機のアナログ回路設計等に携わる。2002年3月に退社し、翌年、「工房shibaken」設立。

### 意欲、体力のある40代で退職を決意

Web制作業を営む「工房shibaken」代表の柴田健太郎さん。以前は、日立通信システム（現、日立情報通信エンジニアリング）で、情報通信システムの開発等を手掛けてきました。

「2002年は、ちょうど日本全国でリストラの嵐が吹き荒れていた年。勤務先も例外なく、早期退職者を募っていました。どうせ10年後、暫定定年で放り出されるのなら、まだまだ意欲も体力もある今が独立のチャンスと考えたんです。ただ、何をやるかは決まっていませんでしたが、とりあえず辞めてしまいました（笑）」

退職後、ハローワーク通いをしながら、将来について考えた柴田さん。いろいろと模索するうちに、「Web制作」の魅力にとりつかれたのです。

「自分で仕事をするなら、インターネットは不可欠と考えていました。ホームページぐらいは自前でと思い、教育訓練給付金も使えたので、Webの学校に通うことに。ところが、これがおもしろくなったのです。自分が若いときに一度は考えたアートの世界と、今まで会社で培ってきたシステム技術やソフトウェア技術などが融合した世界であることに気づいたんです」

柴田さんは退職から1年後の03年3月に、Web制作業で独立を果たします。46歳の時でした。

独立後に再び始めた水泳では、大田区の水泳大会において50歳代の部で大会新記録で優勝するまでに。写真は、水泳大会のリレーで2位になったときのもの（左から2番目）

### 若者に負けない武器が熟年世代にもある！

「まずは知り合いのサイトを無料、低料金で請負して実績を作っていきました。サンプルを見た人から口コミでの受注が増えると考えたんです。また、検索エンジンで上位表示されるように工夫したり（SEO対策）、問い合わせがあったら、すぐに連絡して直接お客様と会うようにしたり、と顧客獲得の努力をしていきました」

結果、徐々に制作依頼が増え、仕事が軌道に乗ってきた。

「Webデザイナーは若い人たちが多いので、私のような熟年は少数派だと思います。しかし、熟年だからできることもあるのです。世の中の仕組みをよく知っているとか、ドキュメントのまとめ方とか、効果的なPRの方法とか、文章力など、これらは若者には負けない武器となります」

自身の武器を自覚し、強化していった柴田さん。さらなる飛躍へ向け、準備は整ったようです。

「工房shibaken」のURLは、
http://www.kobou-shibaken.com/

**成功へのメッセージ**

**会社勤めで蓄積された思考パターンや世界観といったものを一度リセットして、まずは自分を見つめ直し、最も自分に合った生き方、仕事を見つけることが大切です。**

**DATA**

開業年月●2003年3月
開業費用●100万円程度
平均月商●50万円
2007年の売上げ目標（年商）●700万円